

2025年度「東京経大会誌総目次」(第327号～330号)

■第327号(2025年12月)

論文

- 時価総額から見た日米中の「ムーアの法則駆動産業」(2024-2025) 周 牧 之
批判的实在論と社会的創発性 福 士 正 博
ニーダーライン原経済圏内の周域(3)
—ミュンスターラントの事例に即して— 渡 辺 尚

研究ノート

- Amazonにおける消費者レビューの削除について 黒 田 敏 史
宇野弘蔵 著作目録 柴 崎 慎 也

書評

- 塚本恭章『経済学の冒険—ブックレビュー&ガイド100』(読書人, 2023年) /
『いまこそ「経済学の冒険」を語る—本を読み, 文章を書く』(読書人, 2025年)
横 川 太 郎

■第328号(2025年12月)

論文

- コストコのスペイン市場参入戦略 丸 谷 雄 一 郎
戦前期商業教育と簿記知識の普及 小 野 武 美
生成AIを商用利用する個人に対する消費者イメージ 鴫 田 彩 夏
マーケティングの4Pと消費者問題の関係構図
—製品, 価格, プロモーション, 流通チャンネルと消費者問題の関係性—
小 木 紀 親
吉 田 有 希

研究ノート

- 構造的トピック・モデリングによるブランド価値共創研究の類型 森 岡 耕 作

特許発明の技術的範囲と公知技術・出願経過の参酌

—知財高判令和3年10月14日=令和3年(ネ)10049号の分析—

小島喜一郎

■第329号(2026年2月)

論文

中国における育児の「再家族化」と「家族主義」

李蓮花

ベルギー独立とキリスト教民主主義

小島健

宇野弘蔵と河上肇—宇野理論の形成における河上説の影響—

柴崎慎也

哲学的急進主義と歴史知識—1826年のジョージ・グロート

川名雄一郎

非還元的個人主義について再考する：批判的实在論の視座から

福士正博

ニーダーライン原経済圏内の周域(4)

—ミュンスターラントの事例に即して—

渡辺尚

研究ノート

中国におけるごみ不足問題に関する一考察

羅歆鎮

■第330号(2026年2月)

論文

株主総会の周辺制度に関する実証研究の潮流と日本企業の実態

岩田聖徳

コーヒーの焙煎における実践を通じた学習の契機

—焙煎初心者の焙煎体験の分析—

寺本直城

保守費用と軌道状態の関係分析に基づく経済的な保守計画の作成法と

品質向上策の検討

三和雅史

生命保険料決定と公正なデータサイエンス

吉田靖

多様な価値観と経営倫理の一考察

—安全装置による多様な利害の許容と誘導のマネジメント—

石黒督朗

日本のトラック輸送における端末輸送の影響に関する推計

宮武宏輔

サステナビリティ情報の報告単位の検討

—IFRS S1・S2を会計主体論及び連結基礎概念に照らして—

神納樹史

情報収集努力の閾値効果と逡減効果：行動満足への影響

—消費者調査に基づく探索的考察—

近藤浩之